TOPIK

命の循環、次に繋ぐもの

ゆりみつ

森川放牧畜産

出会いと信頼の芽生え

視覚・触覚・声を使って、はじめて外に出た牛の
「怖さ」「戒心」
はじめて出会った日
つなぎ舎を出たばかりの彼女は、外の世界に怯え、
小さな段差にもおそるおそる。
可愛がられていた牛でしたが、外の世界を知らない牛でした。
懐くまで少し時間がかかりましたが、夫がブラシをそっと差し出すと、尻尾をゆらして寄り、安心して「撫でて」と甘える。
それを見て胸に込み上げるのは「かわいい」という優しさと、
「この命が明日の今頃にはお肉になる」
という現実の狭間のざわめき。
私たちは命をいただいて生きる。
肉も骨も内臓も糞も、すべて循環させるための命の輪。
そのなかには、
感謝と罪悪感が同じくらい混ざっている。畜産の現場では感情を抑えることが求められるけれど、私はその枠をこえて「ありがとう」と「ごめんね」を彼女に伝える。

食肉センターへ出発準備
トラックにのせる、私はそっと囁く
「大丈夫、大丈夫」の静かな瞬間は、
まるで儀式。
食肉センターへ到着

職員さんに託し終えたとき、
胸に刺さるのはまだ鳴る「ざわつき」。
帰り道、私は気づく「いただきます」とはただの言葉ではなく、命を受け止め、循環を尊ぶ覚悟なのだと。
とはいえ、何回経験してもまだ、わからない正解はない。

夫は、常に冷静
牛を穏やかに食肉センターへ搬入するまで凛として牛と同調している。
毎回、すごいな、、、とみている。
大仕事をひとつ終えた。
このイノチをどう生かすか、これからが重要。
感謝の循環です!!

活動の支援はこちらから→

Instagram：
morikawachikusan

活動場所：
長崎県西海市

連絡先：
morikawachikusan.shop@gmail.com

閲覧ありがとうございました